

年長児と5年生との 交流

～コロナ禍でも、できることを、できる形で～

鳥取市立 白ゆり保育園



今年度の交流活動

	白ゆり保育園・5年2組	さくら幼稚園・さくら保育園 5年1組・3組
第1回交流	令和2年9月25日(金)	令和2年9月24日(木)
第2回交流	10月30日(金)	11月2日(月)
第3回交流	12月11日(金)	12月7日(月)

第1回目の交流を終えたあと、2園と小学校合同で振り返りの会をもちました。その中で、各園、各クラスのねらいがばらばらだったこと、「交流をして、楽しかったね」だけではなく、「**交流を通して育てたい姿や、各回で何をねらうのかを明確にしていく必要があるのではないか?**」という気づきにより、**交流の柱と交流の目的**を立てました。



交流の柱

【5年生】

- 6年生への自覚を高める
- 自己肯定感を育む

【年長児】

- 小学校への期待と安心感を高める

【教師・保育士】

- お互いの子どもの実態を把握し、接続に活かす





交流の目的

- 1回目 お互いを知る。親しみをもつ。
- 2回目 よりお互いのことを知る。思う。
- 3回目 互いに自分を出しながら、自己発揮して遊ぶ。

2回目以降からは、ねらいを保幼小で共通して持つことにしました。

3回目は活動の大まかな内容も統一しました。

柱が明確になり、ねらいや評価の視点、活動を統一していく中で、それぞれの子どもの姿や目指したい姿に対する課題が把握しやすくなりました。

5年生との交流（白ゆり 第1回）9/25

○ねらい

- * 小学校を身近に感じながら交流を楽しむ
- * 5年生に親しみをもつ

- ## ○事前活動
- ・ 3回通して一緒に遊ぶ仲良しペアを作る
 - ・ 5年生から手紙と折り紙の作品が届く

○内容

昨年度同様、5年生の考えた遊びを保育園で一緒に楽しむ

絵本の読み聞かせ

コーナー遊び（輪投げ・フリスビー射的・玉入れ・紙コップけん玉）

「折り紙のお花、上手！！」
「早く一緒に遊びたいなあ」
など、年長児たちは交流に期待しているようでした。

実際の様子は…



初めての出会いでお互いの緊張感が高く、言葉のやり取りがほとんど聞かれない。

そんな、予想外の子どもたちの姿に、私たちも焦って空回り…

園内で振り返って…

- ・なじみのない活動は盛り上がらないのではないかな。
- ・白ゆりの年長児の姿として、「明るく人懐こいが、新しい環境に対し緊張や不安を感じ、自己表出しにくい子どもが多い」ことが挙げられます。そして、今年の5年生も、昨年度の5年生より人見知りしてしまう子どもが多いとのことでした。昨年度と、子どもの姿が違うことを踏まえて、関わる必要があるのではないかな。
- ・園も受け身ではなく、主体的に活動を作り上げる必要があるのではないかな。

ドキドキして喋れない・・・



予想してた姿と違う。どうしよう…

第1回目の成果

- 緊張して自己表出はできなかったが「本当は楽しかった」「また会いたい」「私もお姉さんみたいに小さい子に優しくしたい」等、5年生に親しみは感じられていたようでした。



第2回目の改善点

次の交流会をより一層意味のあるものにするために、反省を活かして配慮していこう。

- 交流後お礼のお手紙を書いて次回へ期待感を高めました。
- 子どもたちがやりたいと感じている遊びを、活動の中心に据えました。
- 活動を通してねらう姿をさらに明確にしました。
- 園内、小学校と打ち合わせを細かい点までさらに念入りに行いました。
「子どもたちが得意な、今盛り上がっている遊びがありますよ」
「不安そうな表情の子どもには、寄り添って気持ちを代弁するなどフォローしましょう」

新しい出会いや環境に不安感が強い点を、どうつなげていくか



5年生との交流（白ゆり 第2回）10/30

○ねらい

- * 小学校の様子に関心をもち、身近に感じながら交流を楽しむ
- * 交流を通してペアの5年生のことを知り、さらに親しみを感じる。

○評価の視点

- ・ 優しくされて表情を緩めたり、触れ合う楽しさを感じ甘えたり笑顔が見られる。
- ・ 5年生の姿に憧れや親しみを感じながら、安心してことばのやり取りを楽しんでいる。

1回目との変更点

○運動会でなじみができた小学校体育館で実施

(小学校まで徒歩で行く 約1.1km)

○子どもたちになじみがあり、今一番盛り上がっている遊びを活動の中心に

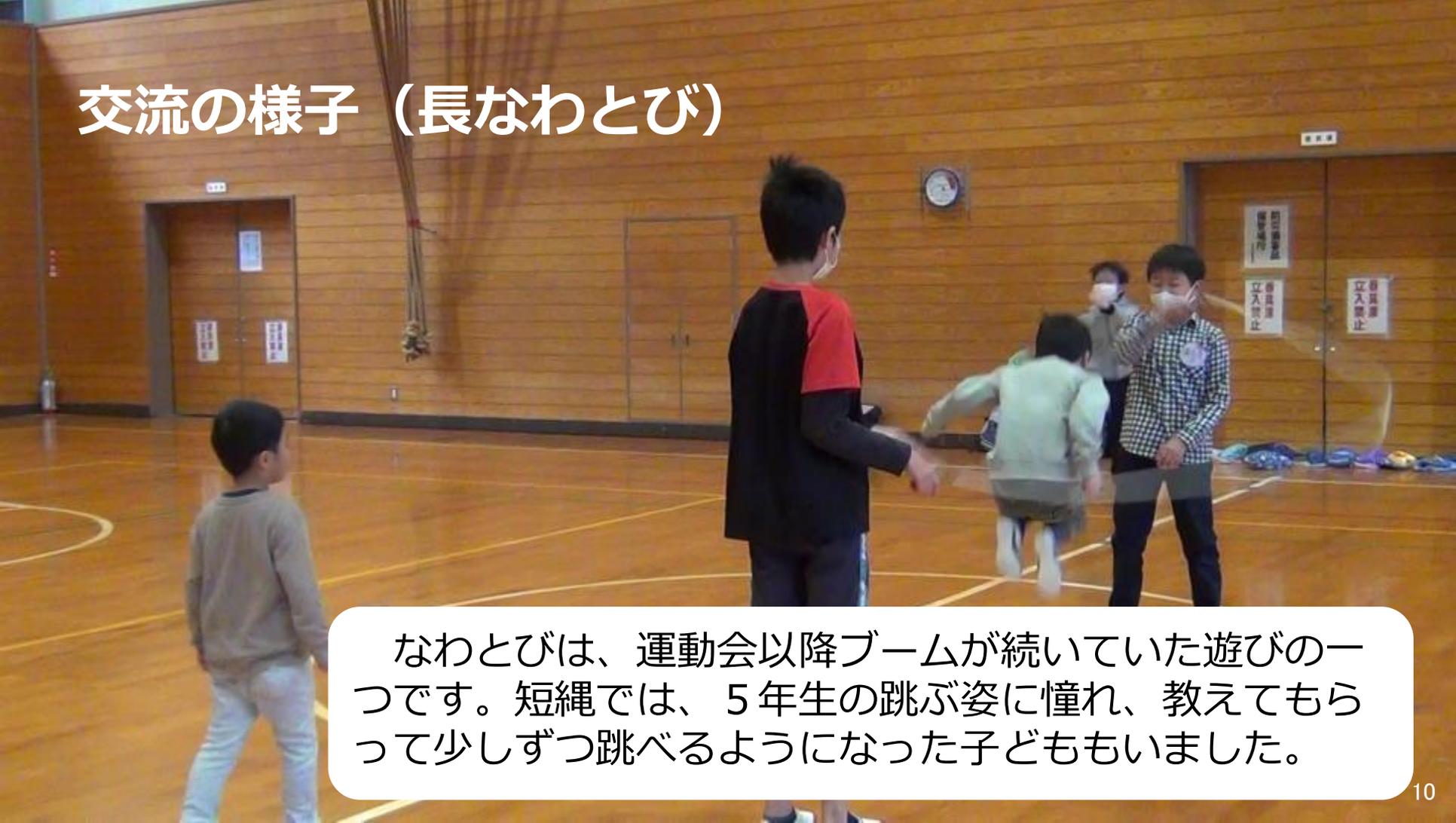
○進行は年長担任

活動内容

- ・体操「昆虫太極拳」
- ・なわとび（短縄・長縄）
- ・ころがしドッジボール



交流の様子（長なわとび）



なわとびは、運動会以降ブームが続いていた遊びの一つです。短縄では、5年生の跳ぶ姿に憧れ、教えてもらって少しずつ跳べるようになった子どももいました。

ペアのお姉さんの後押しで、タイミングを合わせて一緒に縄に入り、1回ですが跳ぶことができたMちゃん。5年生に支えられて挑戦したり、周りの友だちやお姉さんに「Mちゃん跳べたなー。」と頑張りを認められたりした経験は、Mちゃんにとって大きな自信となりました。



交流の様子（長なわとび）

交流の様子（ころがしドッジボール）

白ゆり保育園は遊戯室がとても狭いので、ころがしドッジボールで広い体育館を思いきり走り回れたのは、とても良い経験となりました。

【成果】初回より緊張がとけ、5年生に抱っこされて表情が緩んだり、自分から話しかけたりする姿が見られました。人見知りしてしまう子どもが多いのでペアを固定したのが良かったと思います。

また園でも楽しんでいた遊びだったこと、担任が前に立つことで安心し、より普段に近い姿で交流できたと思います。

この日まで、目指す姿を明確にしながら小学校とも打ち合わせを細かく行うことで、ねらいに向かう関わりが協同してでき、活動を盛り上げることができました。

しかし、ねらいの1つであった学校の様子に関心をもつことをあまり引き出せなかったので

小学校たんけんへ行こう！ 11/12

○ねらい

- * 小学校の様子に関心をもち、発見を楽しみながら身近に感じる
- * 広い校庭で力いっぱい身体を動かす心地よさを味わう。

○内容

- * 校舎内探検 5年生教室 1年生教室 図書室
- * 校庭でかけっこ



小学校たんけんの様子



【成果】教務主任の先生に案内していただき、学校探検をさせてもらう中で、子どもたちは校舎内の様子など気づいたことを次々に話していました。

途中、階段を降りる様子を見られた校長先生が「年長児にとっては、階段1つとっても不安に感じるんですね。」とおっしゃられました。交流がなければ私たちも気づかない発見でした。

そして5年2組の授業の様子も見せていただきました。とてもリラックスした雰囲気の中で手招きして名前を呼んでもらったり、お互い話をしたりして自然と笑顔が見られました。

5年生との交流（白ゆり 第3回）12/11

* 3回目の交流事前打ち合わせの会より…

「次の交流は、子どもの姿や課題を明確化するために、遊びを選び取ること、学校を体験することを共通の活動とし、ねらいと評価を統一させよう」

○ねらい（さくら幼稚園・さくら保育園と統一）

* 遊びの中で、**自分なりに思いや考えを出しながら**、5年生と関わることを**楽しむ**。

○評価の視点（さくら幼稚園・さくら保育園と統一）

* やりたいことを**伝えたり**、わからないことを**聞いたり**しながら一緒に遊んでいる。

* 5年生の姿に憧れや親しみをもちながら、**すすんで遊びに取り組み**、**笑顔**が見られる。

必要に応じて保育士が仲立ちし、**自分なりに「自己表出」できる機会に**

交流の様子（なわとび）



第3回の交流までに
「5年生にみてもらうんだ」と縄跳びの練習を重ね、跳べるようになった子どももいました。

憧れの姿に向かってやりとげ、5年生に喜ばれ、自信をもつ機会となりました。



交流の様子（リレー）

遊びの中に、どんじゃんけんやリレーなど、チーム対抗戦を取り入れたことで、他のペアの様子にも関心が向く様になり、3回の交流を通して成長した部分として感じました。



交流の様子（図書室体験）



交流のまとめとして、文字に関心をもち始めていたので、年末にはお礼も兼ねて年賀状の交換をしました。

交流を通しての 白ゆり保育園の子どもの変容と課題

○子どもの変容

就学に対し、不安に思う子どももいましたが、「ドキドキしたけど、どんなところかわかった！」という言葉が聞かれました。知っているお兄さん、お姉さん、先生がいるということは、大きな安心感につながります。

また、新しい環境でも安心できる大人が仲立ちすることで新しい環境に徐々に対応できる経験ができました。

5年生のなわとびの姿に憧れ、「跳べるようになりたい」「新しい技ができるようになりたい」と意欲的に挑戦し、達成感や自信につながりました。 **「自立心」の育ちが見られました！**

そして友だちに対し、厳しく指摘しがちでしたが、5年生の接し方を思い出し、優しい言葉で伝えようとする姿が見られるようになりました。 **「言葉による伝え合い」の育ちが見られました！**

○課題

- * 5年生と年長児の関わりを深めるためには、まだ保育士の仲立ちが必要な段階であるということがわかりました。コロナ禍で難しい面もありますが、園内でもできる範囲で様々な人と関わる経験を積み、就学後新しい環境にスムーズに移行できる素地を育てているところです。

来年度に向けて

- * 5年生だけでなく、1年生との交流を実施していく。
- * 小学校の先生と合同で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子どもの姿を共通理解し、子どもの内面を見とる研修を取り入れ、入学初期の子どもの育ちを継続して支えてもらえるように活かしていく。
- * 年長担任だけでなく、園全体として取り組みの共有をする。
- * 交流を通して、小学校と連携していくことによって生まれる強みや子どもの課題が見えたので、就学までに育てていくことを明確にし、カリキュラムに取り入れ、保育を展開していく。

